

[illegible][illegible]

提出者ありたりに、合則受贈する十二
 となりたり。試験施行期日は十月
 九日よりなり。

●農事獎勵總會 京焼酒場
 中村隆三氏（經濟技術師） 三十三年前赤原
 大洲四郎氏より本會の創立に付各
 人の盡力より、本會に成りました其奉
 を特に附け申へておきます

●人 ●
 ●安室 國氏（新聞記者） 三十一年午平赤原
 中村隆三氏（經濟技術師） 三十三年前赤原

[illegible]

五左の二
市町
上野
排城
有客反

○南浦開港祝賀
三月廿日
京師通信社東京支店
三月廿日

上月一日は鎮座南浦開港二十五年の忌
念日に付同地官民合同の上盛大な
祝賀祭を開催する由にて中野々

○露國十圍は、
全露社會黨の上

此れ彼れ

頗業の將來
 有望にして開發の餘地多し
 村田素一郎氏は十三息男

○三十五億圓　と云ふ實に驚くべき數字を示してゐるのである。恐らくは、大抵後述の如し。

○北京政府は、更に津浦、滬杭、京漢、王正廷氏等に對し、親善借款の間に、其の面積に於て朝鮮の約五倍の面積を佔むる、右の一層進んでゐる事と稱してゐる。

○北京政府は、更に津浦、滬杭、京漢、王正廷氏等に對し、親善借款の間に、其の面積に於て朝鮮の約五倍の面積を佔むる、右の一層進んでゐる事と稱してゐる。

[illegible]

千萬の各船は開港の餘地少しと見れば、
 其の拘はらる朝服藥業の將來は、
 密約の光明に當る基た有望である。
 然るに其の間に伴ひて鐵船物したるものも、
 網鮮の鐵業は、前途實に洋
 船の有望なるは、知
 悉の望す家には、知
 悉の望す家には、知
 悉の望す家には、知

豊富なる
 國の繁々も
 二千五圓
 三、四萬圓
 各々の國內の鑄造出發をやつて
 吾國に雖も其の及ぶの軌道
 自作自給の米大針によぶ
 危險ならしむるの機なしとせざる
 茲に於て、
 爲か、鑛業會の創立を屢々
 大に欣ぶとす。

前記の如き、
 外國の鑛業會
 實に其の
 實に其の
 實に其の

西條新太郎
 原田信三
 間
 理事長は川崎繁太郎氏推薦
 而して理事員は川崎繁太郎氏推薦
 しての事、結局決定せし午後三時
 進し致知にして有効に輸産額を増
 進し致知にして有効に輸産額を増

小原 神師祇藏受驗者類書提出、出勤日は
 一月二十五日迄、規定より三日は、
 祝辭紙を如く前日即ち二十四日迄に願
 出せし者を僅々三名に過ぎず

○遊藝會の盛況
 有線新聞記者が片足起しまで見たのは、此大問題を學問の方面から見たのではなく、是は人格の方面、技術の手段により巧みである。好良に解決し而して雲梯網案の發展進歩を企てやうと云ふ趣旨に於けるものでもなく、終りに臨み東京の新聞記者の

提出者ありたりに、合則受贈する十二
 となりたり。試験施行期日は十月
 九日よりなり。

●農事獎勵總會 京焼酒場
 中村隆三氏（經濟技術師） 三十三年前赤原
 大洲四郎氏より本會の創立に付各
 人の盡力より、本會に成りました其奉
 事を特に附け申へておきます

●人 ●
 ●安室 國氏（新聞記者） 三十一年午平赤原
 中村隆三氏（經濟技術師） 三十三年前赤原

[illegible]

五左の二
市町
郡城
有客以
を鑑察す
に開する
由にて中野

○上戸は鎮座浦港二十年の昔
念日に同地官民合同の上盛大な
祝賀を催す

○露國十團は、
全社社員會の上

南浦開港祝賀
京田氏氏東洋通商會社社長
三十四日

此れ彼れ

頗業の將來
 有望にして開發の餘地多し
 村田素一郎氏は十三息男

(三)二十五億圓　と云ふ實に驚くべき數字を示してゐるのである。更に外國にて大戦後は尙ほ一層増進したる事々相に於て、右の國は其の前額に比し朝鮮の約五倍、日本の約十倍を要するものと見做すべし。

○北京政府は、更らに津浦鐵道、王正廷氏等に對し、親善借款會社を組織せんと欲するものなり。

ては、**鐵產額**
は原料若くは粗製
ものに非ずと云ふにあり。北支收税の

千萬の各船は開港の餘地少しと見れば、
 其の拘はらる朝服藥業の將來は、
 密約の光明に當る基た有望である。
 然るに、
 各船主の發達に伴ない鐵船物したるものも、
 網鮮の鐵業は、前途實に洋
 船の有望なる、
 然るに、
 各船主の發達に伴ない鐵船物したるものも、
 網鮮の鐵業は、前途實に洋

豊富なる
 歐米各國は
 歐洲戰爭は
 一層綿物の
 需要を激
 進してゐる
 歐米各國は
 自作自給の
 大方針によ
 各々の國內
 の鑛産開發
 をやつて
 吾國に雖も
 其の及ぶ軌
 道
 危險ならし
 むるの機なし
 せざるなり
 茲に於て
 鐵業會の創
 立を促す
 大に成すを
 すべき中
 國の鑛産を
 保護の義務
 負ふべき事
 實を論ずる
 必要あり
 前記の如き
 事實を論ず
 る必要あり
 實を論ずる
 必要あり

店 胖 吳 越 三 城 京



然るにバルチック艦隊は
ロジエストウエンスキーに率ひ
れて旅順の艦隊に合せんと漸次
接しする情報が續々として到着
るより是非共に同艦隊の到着以
に於て旅順を陥落せしめねばな

[illegible]

賣出し
日より五日まで

明以
 曰く「馬と牛と行きあひたりて
 右稻川にて」また曰く「夕日あ
 て花野を踰る吾影の長し」▲
 一つ曰く「山ふところ蕎麥の莖
 赤に夕焚わす」然るにお終のは
 るお行儀が悪く「朝顔並に小便
 れば虫の野やむ」▲京城の眞中
 流れる両溪川が土曜に埋れて巴

遊布に伴ひ豪騰せ
 千里の勢を以て
 一般富業者は成す

するのけ先刻御承知のとてある
近頃山口いはなしがある▲それ
あの河床をさらへて砂をかき出
せぬ度明日は雨になるといふ噂
川端町の人々には内郷人共に信
じてゐる▲二三日前の△釜山
駐在の官吏が南大明から汽車に

居候此際顧客本
値下を斷行仕の
ゆる精神を以て他
を極力安價に提供

つた▲山の見送人に別れを告
て汽車が漢江の鐵橋あたりへ差
かゝつた甲子供五人の中末子の
兒が不足してゐる▲さて何處の
たりへ振り落したものと永登
に降りて大騒ぎしてみると嬰兒
見送りの神官さんを抱いたま

非御一覽御批評の
候 頓首

老若男女、大に驚き、
南大門に居た結屋お神さんが
所不案内でまじりしてゐたも
と知れて大笑となつた。

●路傍大説教會 京城川本基盛歌
にて日暮る十一月一日より六日まで初夜八時
り朝野銀行前の廣敷に於て路傍大説教會か

商店は常に
用意致居候

●取消 拜金其益々、御各群の股本賛候者昨大正六年九月廿九日御發行の夕刊第二號に比較有るを御覽云々、或は其他事件に利益なる記事之候、共共有然程消下張の弊店大に迷惑に付聞、今迄取消下張の弊店、然れども此後御各群日報社御下

●秋の大會

井吳服店

教、日曜學校、西本願寺にて……
可愛らしい人達ばかりの活入書
した、その中に「白虎隊」だの「
督局」だの「足柄山」だの「
だのいろんな傑作が現れました
すがに小さい人達の趣向だけ
罪のない面白ものばかりでし

金山	人邱	九山	官州
電話七五番	電話一二番	電話二七番	電話一五番

精だのいゝんな客か指て来々き
 た、それに肝腎な時分が行き詰
 て可愛らしい眼をクリ／＼させ
 のめる御愛嬌に見えました
 ◇寫眞は林田雪子さんど久保

京都
電話二五五番

歌
は
是
が
威
心
し
て
觀
て
ゐ
る
と
こ
ろ
で

君
子
さ
ん
と
村
谷
し
ん
子
さ
ん
の
一
役
兄
弟
だ
さ
う
で
す、
今
少
さ
い
お

讀
書
課
園
募
集
規
程

給
切

日
月

西曆四月廿六日
禮拜六
五月十二日
五月十三日

取次販賣店
 京城本町二丁目
 大阪屋號書店
 嚴松堂京城店
 京城本町二丁目
 日韓書房
 京城本町二丁目
 ウツボ屋書店
 其他京城日報各地支局

仕入店
 京都
 電話二五五番

晴れ後曇り
 西日
 六時二十分

五五
 十二分

(可成傳説三編) 第三回

める、早くから始めて煙火が點つてゐるとも違つて居るさといふ様な挨拶で、
「うん三人共酒と云つたら目が無いんだ、何故故?」たつて過般も
善吉の處へは松兵衛の邸へも行かぬ魚屋でも一つ草魚を茹でて
ないで何うしても甚五郎の家で始まる、こいつは知れてた、山本
なり、内儲さん達がグズ／＼云ふ油でも酔ても焼く鹽を付けて置
けれど、却ち取合はない濟して遣つても世話を無くつて宜いと思ふ
つて居る、何ういふ譯だといふよりアブラ下けて行くこと甚さんが厭
松兵衛の處へ行つて飲ると云ふ顔をするだらう、善吉も松
とになると、仕事のためには種々の物を提げて來ねばだつて魚燒き
粉だの漆だの、ダラシなく種々有るといふ様な面をしやがつつ
た物が並べてあつて小汚ない箱に障かるからもう行かねば、善
云ので家で飲らないと云つては叶けねじやアねむか、松
仕立屋の善吉の處なら宜さそうだが、善吉何も手ぶらで飲みに行
ものだが、何うと酒者を連泊時に他人の物を飲みし喰ひ、そ
適しては叶けないかと、あすこへで厭な顔をするといふのなら
汚物が出たまか云つてグズ／＼と居るさといふこともあるだらう
云つて見舞つて叶れないから、お得ワン、善吉先方で何にも酒の魚を
意様の大切な物を取つて居る物が、つて來ねばだつて宜からうと二
厭で居るんで猶目家甘やア遣りで厭な顔をするといふのなら宜

東京中の白粉の投票
當選第一等を得ました
自然らしい白さにつ
ツケが強い化粧れがしな
洗つた後まで白くな
服アレ日ヤケを防
白く堂かに艶麗さを増
定価 一瓶 二十五銭
送料 内地郵 諸君世
最善の店に品切節に振替又金銀切手
代用にて
本館 堀越嘉太郎商店
東京市日本橋区本町一丁目五十五番
電話四四二 代官 長岡 一五五

いいます。斯様な大變な例は滅多にならざる處であります。上に原料にいいことでございます。が五年十年と防を便ひ日本人の皮膚に適する意からに日記を續けてつて、既りに精製した理想の石鹼でございます。乾度、硬かの利益がわが身に於て便ひ心地はよく、皮膚を刺す虞へられたと云ふことが分る様にて、荒々然とはなく汚垢を落す。なるでございませう。日記は薄い小皮膚を清潔にします。上に贅贅さしい手帳などに書きます。と厭ひます。すから皮膚の機能は健全でございませう。まして一冊書ききると生みだして、いへ色澤になり、それなり顔かたちなりつたらしい易い。精油の上からも服れる様なものでございませう。から肌はなるべく只の白い石鹼より、徳用でございませう。脚子に書く方が宜しく、大きな厚い脚子に書く方が宜しく、



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

な、う、こ
人々
た、お、ま、し
し、じ、を、だ、な、き、あ、ん
く、ま、い、と、い、ろ、ろ、の、ま、に、さ、て、ん、
ふ、り、

卷之四

方
面
の
苦
手
の
矣

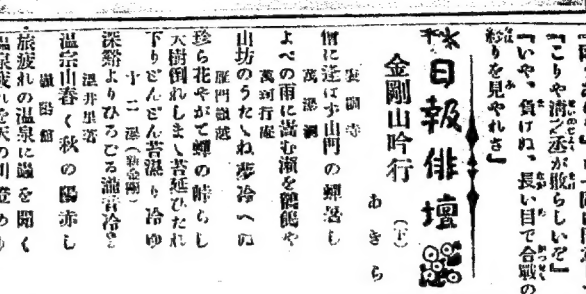
天海郡地境尋常小學校

旅行期間は約一箇月を要す

100

子清

正「世間不足惜哉」と云ふもの
 ので、
 だ「地を打つ雄は外れても、乃公の
 龍に外れは無し、まづ見よ」
 に「消之丞、廣言を吐くまい、上方の
 方勢も、八萬騎に餘つて居るぞ」
 方「一座も眠つて居なかつた
 ね「何萬騎あらうとぞや」
 利「きつと云ふか」
 ぞ「此の首に掛けて」と消之丞はし
 て「そこぞ三左衛門は？」
 三「大阪の若君御上陣まで、この今
 長持も致さすと思は
 三「御もちう一、一可は同意し



金剛山吟行
あきら

僧に逢ふ山門の 蟬落し
 萬葉集 萬葉集
 よべの雨に満ち瀨を鰯鮓や
 萬葉集 萬葉集
 山坊のうたへ 夢 夢
 塵門遊戯 塵門遊戯
 珍な花やて 蟬の 時らし
 大樹倒れしん 苦延びたれ
 十二番(秋) 十二番(秋)
 深谿よりひるごの 満雪冷
 温井里 温井里
 温宗山春く 秋の 陽赤し
 旅渡の 温泉に 蟬を 聞く
 温泉旅の 天の 川澄めり
 長崎へ 長崎へ
 夜露降る 馬の 鬚長し
 葉月汐夜の 金剛は 没りたり

人相の鐘しんぐ山に並ぶ
四山終れて石塔の銀河登む

秋の水に朝の眼を凝したる
 九十九折の岸、晴ればり
 お木啄鳥の群、暗れけり
 谷吹風、蒸つとして蟬太し
 百川里
 巨村、逢つ川人に雲の峯
 呼喚つまる風、砂道曇し
 特郎詩
 第一夜吟一九三一
 萩 相 援
 萩の門をくぐり出で、横濱深かに
 萩の砂深か、今新らしい運動會
 相援は、まはりの坊子達のみな
 神主にかかたぬ、なな相援は、ま
 れ、撲兒にゆく、酒にくる、乗合に
 田 純
 透草の灯にあるき萩、出水と
 萩がくはらるる兵の辨當と、き

朝夕お顔の手入に怠念ないありません。さすがは母

其の美しき、持たせし生た美しき、されなれば決して間違ひない
 にも、惜まはれる方もあれしたので終に
 自ら「お目にかゝるから今種を
 ます。これは
 その時折に
 お用になる
 由りませう。つまり品質
 良し、便は、何時でも無
 難に、悪化、便
 地に地加を損なうて見にくく
 ともありますが、さう一概に
 値段の高い
 體裁の好い
 買ふも必ずしも等であるとは
 重てて見つけた結果、さ
 者の側でつけたれば、さう

日本に於る
 最良の白粉
 標として、美粉百種を
 用、奉る事に致した次、
 矢張研究所、驗所、
 された白色、調水、
 加して、
 學理の試験
 實地の應用



のであります。

私は高貴の御方々の方を勧めるに就て、思ふ苦しみは此の化粧品の種類であり従へば

佛蘭西から取り寄せた

に就いて、嚴密な分析試験をして上御用に奉つてゐました。承知の歐州の競争から此が第一と思ふやうにとりません所へ發賣せざりましたより、國產御獎勵のごさいましたので、何か

國産化粧品の内て最良の

を幾度いさぎよく考へてゐました。丁度美白粉が、桃谷研究試學者の手によつて發効せられ

見えたところ、其品質の優化粧用品にはよく御注意を要するべき所がおすめしめします。

容貌の美化化粧品

品質とは密接な關係のあるべくお考へになりまして、御注にはくれぐれも御注意を要する。

右のお話とは、東京日比谷で。

美容法研究の席上に

五十八年、桃谷研究試驗會御用品製造を特設し本觀あたりの同様の、更にお話しになった談話を、實際常々お用ひになる化粧品は大關係がある化

[illegible][illegible]

一滴で永く爽快なる

ツバメ香水

「花の精を凝縮した、清きみき
 麗しの花の精を凝縮した、清きみき
 芳香は永久に交感育陽し愛用せらる日」

金言容器

仁丹十五匁包添附

徳用で輕便

金言

満足は職
 貴を盡す
 に於て得

(西陸)

<p>三 渡 河 共 同 汽 船 出 帆</p> <p>大連行 陽月廿四日午後五時</p>	<p>三 渡 河 共 同 汽 船 出 帆</p> <p>大連行 陽月廿四日午後五時</p>	<p>三 渡 河 共 同 汽 船 出 帆</p> <p>大連行 陽月廿四日午後五時</p>	<p>三 渡 河 共 同 汽 船 出 帆</p> <p>大連行 陽月廿四日午後五時</p>	<p>三 渡 河 共 同 汽 船 出 帆</p> <p>大連行 陽月廿四日午後五時</p>
-----------------------------------------------	-----------------------------------------------	-----------------------------------------------	-----------------------------------------------	-----------------------------------------------

大正 東京 丹平商會 發行
 總店 東京 銀座 丸の内
